

日本橋学館大学

平成 22 (2010) 年度

年次報告書



# 平成 22 年度年次報告書

## 目 次

1. 建学の精神	2
2. 沿革	3
3. 学事関係	4
4. 教育研究組織	5
5. 法人役員・評議員・教職員の概要	6
6. 教育活動	7
6-1 教育課程	
6-2 3学科の教育目的	
6-3 クロスオーバー履修制度	
6-4 初年次教育	
6-5 少人数教育	
6-6 「ゼミナール」の目的と目標	
6-7 教職課程	
6-8 学芸員課程	
7. 研究活動	13
7-1 教員の研究業績	
7-2 研究・委員会活動	
7-3 研究所・センター・その他	
8. 学生	14
8-1 学部・学科の学生定員および在籍学生数	
8-2 留学生支援	
8-3 奨学金制度	
8-4 健康相談、心的支援、生活相談等	
8-5 就職・進学支援	
8-6 卒業生の進路	
9. 学生のクラブ・同好会活動等	25
10. 社会的活動	27
10-1 生涯学習支援センター	
10-2 大学コンソーシアム柏	
10-3 図書館関係	
10-4 日本橋学館大学協力会	
10-5 出張授業	
10-6 地域における活動	
11. 募集活動	30
11-1 「大学説明会」の開催	
11-2 学長による高等学校長訪問	
11-3 本学専任教員による高等学校訪問	
11-4 オープンキャンパスの開催	
11-5 入学試験の実施	
12. 管理運営	33
12-1 校地、校舎等の面積	
12-2 講義室、演習室、学生自習室等の概要	
12-3 管理運営体制	

## 1. 建学の精神

本学を経営する「学校法人日本橋女学館」（以下、本法人という）の母体は、明治22（1889）年に設立された「日本橋区教育会」である。この「日本橋区教育会」が、明治37（1904）年に「日本橋女学校」（後に「日本橋高等女学校」）を設立し、明治38（1905）年から日本橋地区の子女の教育を開始した。この年の「日本橋女学校」の開校式で、初代校長・浦田治平の示した教育方針が「質実穩健」という言葉に集約されている。以来、二三の組織変更はあったものの、この「質実穩健」は本法人の「建学の精神」として今日まで受け継がれてきている。すなわち、大正4（1915）年に「日本橋区教育会」は「財団法人日本橋女学館」として独立し、その「設立寄附行為」第1条に、「本財団は、質実穩健なる学風の下に、日本橋区女子教育の普及発展を図るを以て目的とす」と規定している。

また、昭和23（1949）年には学制の改革により、「日本橋高等女学校」は「日本橋女学館中学・高等学校」となり、昭和26（1951）年には「財団法人日本橋女学館」を「学校法人日本橋女学館」へと組織変更しているが、「学校法人日本橋女学館寄附行為」第2章第3条においても、「この法人は、教育基本法及び学校教育法並びに私立学校法に従い、質実穩健なる学風のもとに学校教育を行い、社会に有用な人材を育成することを目的とする。」と規定して、「建学の精神」としている。

本法人は、昭和62（1987）年に80年の女子教育の伝統を生かし、当時の社会的要請に応えるため「日本橋女学館短期大学」を、現在の千葉県柏市に設置して、数多くの優れた卒業生を輩出してきた。その後、高等教育の高度化・多様化・個性化、科学技術の国際化・情報化や生涯学習社会への移行など、激変する時代に対応できる人材育成を企図して、平成12（2000）年に女子短期大学を男女共学の4年制大学へと全面改組し、その名称も「日本橋学館大学」に改めて、新たなスタートを切っている。

本学の「学則」第1章・総則の第1条（目的）には、次のように記されている。

日本橋学館大学は、学校法人日本橋女学館草創の精神に則り、質実穩健の人格を育成し、総合的創造的な学術技術を研究教授して、社会においてこれを躬行実践、気品知徳の模範として指導的役割を果たす人材を育成するとともに、広く国際社会全体の平和と文化の発展に寄与することを目的とする。

このように、「寄附行為」及び「学則」にも謳われている本法人の「建学の精神」〈質実穩健〉は、明治38（1905）年に行われた「日本橋女学校」の開校式における校長訓示以来、100年以上にもわたって継承されてきた。しかしながら、時代の変化とともに、「建学の精神」も常に問い直されなくてはならない。平成18（2006）年12月に教授会の下部組織として発足した「将来計画委員会」では、本学の教学上における基本的な問題として、「建学の精神」の現代的意義、大学の「基本理念」及び「使命・目的」等を、1年余りをかけて慎重に検討した。その結果、〈質実〉とは「生活態度に飾り気がなくて真面目なさま」、〈穩健〉とは「考え方などが偏らず常識的である様子」等の辞書的な定

義から出発して、最終的には＜質実穩健＞の現代的意義を、次のように定義することとした（平成 19（2007）年 7 月 18 日、教授会承認）。

「質実」とは、人の暮らしや行動に派手さがなく、内容が堅実であること。すなわち、「質実」な生活を支えるための実学の伝承及び社会人としての基礎力の育成を目指している。「穩」は、心の有り様が「穩」やか、安らかなこと。「穩」やかな精神を育む、バランスのとれた幅広い教養と感性の教育を目指している。「健」は、身体が丈夫なこと。「健」やかな肉体、及び活力ある個性を育てることを目指している。

更に、＜質実穩健＞な人材の育成に要する「教育内容」として、＜質実＞であるためには「実学」を修得して専門性を高めること、＜穩健＞であるためには「教養」を身に付けることが必要であるという認識に到達した。ここから、本学の目指す教育研究上の「基本理念」は、「実学と教養を 2 本柱とする人間教育」とすることとし、「使命・目的」を「社会に貢献できる高い人間力を有した人材を育成すること」と定めたのである。

平成 21（2009）年 4 月より、本学は「建学の精神」である＜質実穩健＞の現代的意義を踏まえた改組再編の結果として、従来の「人文経営学部」に代わって、「リベラルアーツ学部」を発足させている。その「教育目標」としては、「基礎力を固め、専門性を高めつつ、幅広い教養を身に付けること」を掲げている。そのために、「教育内容・教育方法」の大幅な改善を図り、「初年次教育」・「少人数ゼミナール」・「クロスオーバー履修」等の特色ある「教育システム」を構築しつつある。究極的には、「人間力」（社会で生き抜く力、すなわち「社会人基礎力」）を培うことを目指している。

## 2. 沿革

「建学の精神」でも語られているように、本法人は 100 年を越える歴史を持つ。それを母体として育った本大学は、その価値ある歴史と伝統を活かし、一方で、新しい時代に適応する活力を持った大学でありたい。

明治 37(1904)年	(社)日本橋区教育会に対して日本橋女学校(本科定員 140 名、修業年限 4 年)の設立認可
明治 38(1905)年	日本橋蛸殻町第一幼稚園舎で開校式挙行。『質実穩健』の教育方針訓示
明治 38(1905)年	5 月 1 日、第一幼稚園舎で授業開始（創立記念日の起源）
明治 39(1906)年	高等女学校令に基づく私立日本橋高等女学校（4 年制）に組織変更認可（当時、東京府下の高等女学校は府立 4 校を含めて 7 校）
明治 43(1910)年	柳原川岸三号地元千代田小学校跡に移転。修業年限 5 年、定員 400 名に変更
大正 4(1915)年	財団法人日本橋女学館設立認可

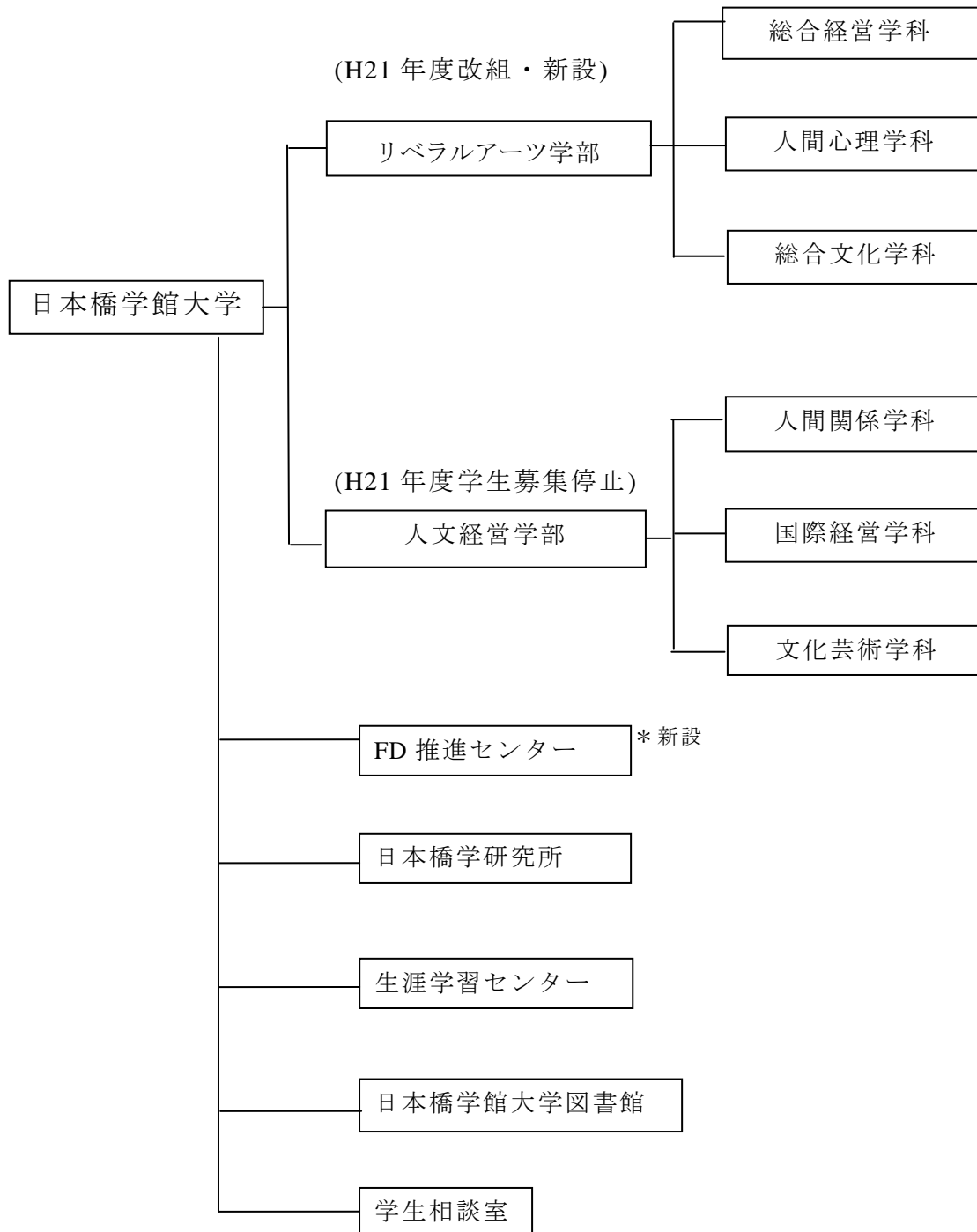
昭和 22(1947)年	学制の改革により私立日本橋女学館中学校となる
昭和 23(1948)年	私立日本橋女学館高等学校設置。私立日本橋女学館中学・高等学校と総称
昭和 26(1951)年	財団法人日本橋女学館より学校法人に組織変更認可
昭和 30(1955)年	創立 50 周年記念事業実施
昭和 40(1965)年	創立 60 周年記念式典（秩父宮妃ご来臨）
昭和 54(1979)年	市川学校園研修センター（寄宿舎、テニスコート、グラウンド）完成
昭和 61(1986)年	日本橋女学館短期大学設置認可。入学定員／秘書科 100 名・英語科 100 名
昭和 62(1987)年	日本橋女学館短期大学開学（初代学長：角井 宏）
平成 7(1995)年	創立 90 周年記念式典
平成 11(1999)年	日本橋学館大学設置認可。入学定員／人文経営学部人文経営学科 250 名
平成 12(2000)年	日本橋学館大学開学（初代学長：小谷津孝明）
平成 12(2000)年	日本橋学館大学開学式、日本橋学館大学第一回入学式
平成 13(2001)年	日本橋女学館短期大学閉学
平成 16(2004)年	日本橋学館大学人文経営学部人文経営学科を 3 学科（人間関係学科、国際経営学科、文化芸術学科）に組織改組
平成 17(2005)年	創立 100 周年記念式典
平成 18(2006)年	第二代学長：横山幸三 就任
平成 21(2009)年	日本橋学館大学人文経営学部をリベラルアーツ学部に変更。3 学科（総合経営学科・人間心理学科・総合文化学科、入学定員 225 人）を設置。教職課程・学芸員課程を設置。

### 3. 学事関係

- ・平成 22 年 4 月 1 日 入学式（新入生 165 人）
- ・平成 22 年 4 月 2 日～ 5 日 ガイダンスウィーク  
（履修ガイダンス、学生生活ガイダンス、健康診断等）
- ・平成 22 年 4 月 6 日 前期授業開始
- ・平成 22 年 5 月 1 日 創立記念日
- ・平成 22 年 7 月 26 日 前期授業終了
- ・平成 22 年 9 月 13 日 後期授業開始
- ・平成 22 年 10 月 30 日・31 日 柏学祭
- ・平成 23 年 1 月 17 日 後期授業終了
- ・平成 23 年 3 月 18 日 第 8 回卒業式（卒業生 130 人）

## 4. 教育研究組織

学部改組に伴う移行措置のため、平成 22 年度は人文経営学部（2 年次以上）とリベラルアーツ学部（1 年次）が並置されている。



## 5. 法人役員・評議員・教職員の概要（平成22年5月1日現在）

### [役員]

職名	氏名	寄附行為上の選任条項
理事長	細田 安兵衛	第7条第1項第5号
副理事長	山本 泰人	第7条第1項第2号
副理事長	三田 芳裕	第7号第1項第2号
常任理事	横山 幸三	第7条第1項第1号
常任理事	揚村 洋一郎	第7条第1項第1号
常任理事	藤山 一郎	第7条第1項第3号
理事	服部 一枝	第7条第1項第3号
理事	森本 妙子	第7条第1項第4号
理事	竹内 保夫	第7条第1項第5号
理事	柏原 孫左衛門	第7条第1項第5号
理事	岩山 康之	第7条第1項第2号
理事	新堀 聡	第7条第1項第5号
理事	宮入 正英	第7条第1項第2号
理事	西川 恵	第7条第1項第5号
監事	築地 照吉	第8条
監事	中田 多嘉子	第8条

### [評議員]

- ・ 寄附行為第25条第1項（法人の職員）-----（5人）  
服部一枝、揚村洋一郎、藤山一郎、横山幸三、津川祐一
- ・ 寄附行為第25条第2項（卒業生）-----（3人）  
宮田栄子、森本妙子、樋口君子
- ・ 寄附行為第25条第3項（理事会選出）-----（3人）  
竹内保夫、新堀 聡、西川 恵
- ・ 寄附行為第25条第4項（学識経験者）-----（19人）  
岩山康之、細田安兵衛、柏原孫左衛門、山本泰人、三田芳裕、和気潤一、  
松井巖司、廣田忠勇、石渡 茂、角井 宏、清水千枝子、渡辺 昌、  
繁田開作、梅田勝利、木屋幸蔵、池木 清、富井征也、清水満昭、宮入正英

### [専任教職員]

大学教員：33人 大学事務職員：25人  
 高校教員：26人 高校事務職員：9人  
 中学教員：9人 中学事務職員：1人  
 法人本部事務職員：1人  
 法人合計：104人

## 6. 教育活動

### 6-1 教育課程

以下の2種類の教育課程が並存している。2カリキュラムは1カリキュラムの検討・反省のもとに作成されたものである。

#### 2種類の教育課程

1カリキュラム（人文経営学部）— 平成16(2004)年度に改定された教育課程。

平成22(2010)年度の3・4年次が該当し、以下の3学科7専攻で構成される。

人間関係学科—人間社会専攻・心理臨床専攻

国際経営学科—総合経営専攻・経営情報専攻・国際秘書専攻

文化芸術学科—美学芸術専攻・国際文化専攻

2カリキュラム（リベラルアーツ学部）— 平成21(2009)年度に改定された教育課程。

平成22(2010)年度の1・2年次が該当する。

総合経営学科

人間心理学科

総合文化学科

1カリキュラムでは、1年次に7専攻の教育概要を紹介する7つの「展望科目」すべてを履修した上で、各自の専攻を選び、2年次より、それぞれの学科・専攻に所属するシステムをとっていた。一方、2カリキュラムでは、1年次から各学科に属し「専門科目」を履修できるシステムとした。2カリキュラムにおける教育課程編成の概要は以下のとおりである。

#### 2カリキュラムの教育課程編成の概要

共通科目	基礎科目	補習教育的科目(英語・国語・数学)を含む	
	教養科目		
専門科目 (各学科)	キャリア科目		
	外国語科目	1年次必修(第1・第2外国語)	
	スポーツ健康科目	1年次必修を含む	
	導入的な科目	1年次	クロスオーバー履修 (他学科も履修可能)
各専門の中心科目	2～4年次		
発展的な科目	3・4年次		
	ゼミナールⅠ～Ⅳ	1～4年次必修	
	卒業研究	4年次必修	



また、卒業に必要な単位数は以下のとおりであるが、他大学等で修得済みの単位を、原則60単位まで組み込むことが可能である。なお、各学年への進級条件に関する規定はない。

### 1 カリキュラムの卒業に必要な最低単位数

基礎教養的な科目	ウェルネス科目	4 (必修)
	コミュニケーションリテラシー科目	8 (必修)
外国語科目	第1・第2外国語科目 (注1) 第1外国語 (英語) 第2外国語	12 (内、必修4) (内、選択必修4)
コメンズメント科目	キャリアプランニング	2 (必修)
	研究会 (卒業研究を含む) (注2)	4 (必修)
パースペクティブ科目	展望科目	14 (必修)
専門科目	各専攻の専門科目 (クロスオーバー履修を含む) (注3)	80
合 計		124

(注1) 残りの選択4単位分については、必要とされる外国語の種類が専攻ごとに異なる。

(注2) 「卒業研究」は、4年次の「研究会Ⅱ」において合否判定される必修科目とする。

(注3) 他専攻の専門科目・ウェルネス科目・外国語科目・キャリアプランニングの修得単位数を選択科目として組み込むことができる。各専攻の必修・選択・クロスオーバー履修の上限の単位数は、専攻ごとに異なる。

### 2 カリキュラムの卒業に必要な最低単位数

	総合経営学科・総合文化学科	人間心理学科
共通科目	8 (必修)	8 (必修)
自学科の専門科目	72 (内、必修20を含む)	74 (内、必修22を含む)
自学科の専門科目 共通科目 他学科の専門科目 (注)	46	46
合 計	126	128

(注) クロスオーバー履修制度により、他学科の専門科目 (ゼミナール・卒業研究を除く) の修得単位数を、選択科目として組み込むことができる。

なお、本学で取得できる資格は次のとおりである。

#### 取得できる資格

資 格		主たる対象学科
秘書士、上級秘書士	全国大学実務教育協会	総合経営学科
情報処理士、上級情報処理士		
認定心理士	日本心理学会	人間心理学科
カウンセリング実務士	全国大学実務教育協会	
高等学校教諭 1 種免許状（情報）		総合経営学科のみ
中学校教諭 1 種免許状（英語・国語・社会）		総合文化学科のみ
高等学校教諭 1 種免許状（英語・国語・公民）		
学芸員		全学科 （クロスオーバー履修）

### 6-2 3 学科の教育目的

各学科の教育目的については、1カリキュラムをもとに改良された、平成 21（2009）年度より実施されている 2カリキュラムについて記す。

#### 【総合経営学科】

企業経営の基本となる経営管理・会計・秘書・ITや、近年課題となっている健康・スポーツなどについて、理論的・実践的な専門性を身に付けるとともに、これらを社会で役立てられる実践力、ビジネスにおける効率的な組織運営や迅速で的確な意思決定にとって必要不可欠な ITスキルをベースとした情報力やコミュニケーション力、社会人の基礎力を育成する。

#### 【人間心理学科】

人間を見つめる心理学的素養とカウンセリングマインド、客観的思考を可能とする科学的素養を持ち、社会人として豊かな人間関係を築ける人材、心理学的視点で人間・社会を見つめる力を持つ人材を育てる。具体的には、基礎心理学、臨床心理学、医療・保健・福祉に及ぶ豊富な専門科目に支えられた心理学的素養を持つ人材、臨床家を育成する。

#### 【総合文化学科】

日本や外国の文学・言語・美術・音楽・演劇・民俗・歴史・教育など、人間が生み出した文化についての専門的で総合的な理解を身に付け、あわせて人間の社会的活動を科学的視点からとらえることができるような人材を育成する。

### 6-3 クロスオーバー履修制度

本学の教育課程における独特な制度として、クロスオーバー履修制度がある。この制度は、開学以来のものであり、他学科や他分野の科目の自由な履修を可能とし、幅広い教養人育成のために設けられている。

### 6-4 初年次教育

平成 15(2003)年以降、新入生全員を対象に、大学という新しい環境に適応できるようにするために、専任教員の指導を充実させてきた。開始時には、「1年生ゼミ」(単位なし)を設けたが、平成 16(2004)年度の改組により 1カリキュラムの「キャリアプランニング I」(1単位・必修)となり、2カリキュラムでは「ゼミナール I」(1単位・必修)に改定された。これらの指導は、学生が所属する学科の専任教員が担い、担当教員 1 名につき 8 人前後の学生を対象としてなされる。具体的活動としては、履修指導、図書館オリエンテーション、球技大会等を実施し、学生生活全般にわたった指導を行うとともに、学生間の親睦もはかっている。

また、基礎学力不足の学生に対しては、「基礎カリテラシー」という科目を設置しており、英語・国語・数学の基礎学力の補習的指導を行っている。

初年次の第 1 外国語(英語・フランス語・ドイツ語・中国語)科目については、同一教員が週 2 回の授業を行うことで基礎力の充実をはかっている。その中でも英語科目に関しては、入学時に行う基礎力テストにもとづく習熟度別クラスを編成している。

### 6-5 少人数教育

本学は、小規模大学である上に、幅広い教養教育を行っているために、すべての科目において少人数のクラス編成となっている。しかも、履修者数の上限を次のように設定している。

履修者数の上限(原則)

科目区分	履修者数の上限
情報機器科目	30人
演習・実習科目	30人程度
講義科目	60人程度

また、1カリキュラムにおける 3・4 年次の通年必修科目である、専門分野の教育を中心とする「研究会」、2カリキュラムにおける通年必修科目である 1 年次から 4 年次までの「ゼミナール」においても、少人数のクラス編成がなされている。

### 6-6 「ゼミナール」の目的と目標

少人数クラス編成によって、専任教員による丁寧な指導がなされている「ゼミナール」の目的と目標は以下のとおりである。前記したように、「ゼミナール」は、2カリキュラムにおいては、1 年次から 4 年次まで通年の必修科目となっており、1 年次と 2 年次には、学習面に加えて大学生活全般にわたる指導も行い、3 年次と 4 年次には、

「卒業研究」につながる専攻分野の教育を行っている。

## 2 カリキュラムにおけるゼミナールの目的と目標

ゼミナール	目的	目標
I (1年次)	大学における学習活動の基礎を作る	新たな環境である大学生活への適応 図書館での図書資料の検索 レポートの作成
	学習習慣の定着化	意欲的に授業に出席し、理解し、わからないことを質問できる姿勢
	コミュニケーション能力を培う	教員や友人との信頼関係の構築
	自己表現力を培う	自己紹介などの自己表現練習
II (2年次)	専攻分野の選択へ向けた準備	専攻分野の把握と自己の興味の確認
	問題解決能力の基礎を培う	問題点の指摘
	社会生活を営むための姿勢を培う	社会常識の理解、実践
III (3年次)	専攻分野の基礎を培う	専攻分野の基礎の理解 専攻分野の必要資料などの検索 論理的思考力の育成
	将来を展望する	進路と人生の目標の探求
IV (4年次)	専攻分野に対する深い理解	専攻分野における問題発見、解決、まとめ、発表 卒業研究の完成
	将来を展望する	進路についての明確な目標

このような目的・目標を達成するために、担当教員は、学習支援に加えて、次の役割等を担っている。

- ・ 学生が履修科目選択する際の相談・指導と履修登録の際の確認
- ・ 履修単位数の少ない学生や欠席の多い学生に対する相談・指導
- ・ 各種資格取得を求める学生への支援
- ・ 学生の進路に関するキャリアセンターと連携した指導
- ・ 大学からの必要に応じた学生への連絡
- ・ 学生の個人的なさまざまな相談・指導

## 6-7 教職課程

リベラルアーツ学部への改組に合わせて教職課程を設置することとなり、文部科学省の認可を受けて平成 21(2009)年度より運用を開始している。

平成 22(2010)年度は設置二年目のため履修者は1・2年次のみであり、学年進行で平成 24(2012)年度に完成を予定している。この間、教育実習、介護等体験、教員就職支援など必要な活動について随時準備を進める予定である。

教職課程の設置学科および取得可能な免許状

総合経営学科	高等学校教諭 1 種免許状 (情報)
総合文化学科	中学校教諭 1 種免許状 (英語) 高等学校教諭 1 種免許状 (英語)
	中学校教諭 1 種免許状 (国語) 高等学校教諭 1 種免許状 (国語)
	中学校教諭 1 種免許状 (社会) 高等学校教諭 1 種免許状 (公民)

教職課程の履修要件\*

免許状の種類	基礎資格	教科に関する科目	教職に関する科目	教科又は教職に関する科目	合計
中学 1 種	学士の学位を有すること	20 単位	31 単位	8 単位	59 単位
高校 1 種		20 単位	27 単位	16 単位	63 単位

\*教育職員免許法施行規則等に定める必要単位数。このほか教育職員免許法施行規則 66 条 6 により「暮らしのなかの憲法」「スポーツ実技 I・II」「外国語 (1 科目)」「情報機器の操作 I・II」の修得が必須となる。また中学 1 種の取得のためには「介護等体験」が義務づけられる。

教職課程の登録は、2 年次進級時に行う。1 年次には、共通科目として設定されている「学校と教育の歴史」「心身の発達と学習過程」「学校の制度」を随意に履修して、学校教育および教職についての関心を高め、学生自らの志向や適性を確認してから教職課程に登録することを推奨している。なお、上記 3 科目は「教職に関する科目」に算入される。

## 6-8 学芸員課程

教職課程と同じく、リベラルアーツ学部への改組に合わせて学芸員課程を設置することとなり、文部科学省の認可を受けて平成 21(2009)年度より運用を開始している。総合文化学科の正規の授業を受講しながら、同時に、学芸員課程として規定されてい

る単位を修得すれば、学芸員の資格を取得できる。総合経営学科および人間心理学科の学生についても、クロスオーバー履修を活用して同資格を取得することが可能である。

なお、博物館法施行規則1条1に定める「博物館に関する科目」として「生涯学習論」「博物館概論」「博物館経営・情報論」「博物館資料論」「博物館実習」「視聴覚メディアと教育」「学校と教育の歴史」が設置されている（計15単位）。このほかに文化史・美術史・民俗学のうち2分野以上から8単位以上の選択科目を修得すれば学芸員資格を認定される。これらの選択科目は総合文化学科の専門科目として設定されており、必修科目を含めてすべて卒業単位に算入できる。

## 7. 研究活動

### 7-1 教員の研究業績

本学専任教員の研究業績については本学ウェブサイトの下記ページに掲載されているので参照のこと。

総合経営学科 [http://www.nihonbashi.ac.jp/gakubu/keiei\\_kyounin.php](http://www.nihonbashi.ac.jp/gakubu/keiei_kyounin.php)

人間心理学科 [http://www.nihonbashi.ac.jp/gakubu/shinri\\_kyounin.php](http://www.nihonbashi.ac.jp/gakubu/shinri_kyounin.php)

総合文化学科 [http://www.nihonbashi.ac.jp/gakubu/bunka\\_kyounin.php](http://www.nihonbashi.ac.jp/gakubu/bunka_kyounin.php)

### 7-2 研究・委員会活動

平成22(2010)年度における教員の研究・委員会活動については次のとおりである。

- ・『紀要』第10号を刊行した。(原著論文5点、研究ノート3点、報告・資料2点)
- ・『日本橋学研究』第4巻1号を刊行した。
- ・科学研究費補助金(日本学術振興会交付分)の交付を受けた研究は次のとおりである。(研究代表者・五十音順に記載)
  - ①「武家肖像彫刻の基礎的研究」 研究代表者：塩澤 寛樹教授
  - ②「萎縮性骨格筋に対する運動の影響－筋代謝能, 脈波速度, 成長ホルモンからの検討－ 研究代表者：芳賀 脩光教授

### 7-3 研究所・センター・その他

平成22(2010)年度の研究所・センター等における活動は以下のとおりである。

- ・平成22年度より、FD推進センターが開設され、外部講師等による「講演会」を2回(平成22年7月21日、10月6日)開催し、本学専任教員による「模擬授業」を1回(平成22年11月24日)実施した。
- ・日本橋学研究所主催で、講演会が開催(平成22年10月30日(土)・テーマ「日本橋と柏の深～い関係 Part2」)された。

## 8. 学生

### 8-1 学部・学科の学生定員および在籍学生数

平成 22 年 5 月 1 日現在

学部・学科		入学定員	編入学定員	収容定員	在籍学生総数	在籍学生数			
						1年次	2年次	3年次	4年次
						学生数	学生数	学生数	学生数
リベラルアーツ学部	総合経営学科	95	5	390	101	71	30	—	—
	人間心理学科	40	5	170	69	48	21	—	—
	総合文化学科	90	5	370	66	47	19	—	—
リベラルアーツ学部合計		225	15	930	236	166	70	—	—
人文経営学部	人間関係学科	—	2	—	67	—	2	25	40
	国際経営学科	—	2	—	108	—	0	35	73
	文化芸術学科	—	2	—	98	—	2	28	68
人文経営学部合計		—	6	—	273	—	4	88	181
合計		225	21	930	509	166	74	88	181

### 平成 22 年度志願者および入学者の出身高校の地域別人数と割合

		志願者数 (人)	全志願者に対する 割合 (%)	入学者数 (人)	全入学者に対する 割合 (%)
リベラルアーツ学部	千葉県	52	28.6	49	30.0
	北海道	5	2.8	5	3.0
	東北	8	4.4	7	4.2
	関東	67	36.8	64	38.8
	甲信越	5	2.8	5	3.0
	北陸	1	0.5	0	0
	東海	0	0	0	0
	近畿	0	0	0	0
	中国	0	0	0	0
	四国	8	4.4	8	4.9
	九州・沖縄	5	2.7	5	3.0
	その他*	31	17.0	22	13.3
	合計	182		165	

\*その他：外国の学校を卒業した者、高等学校卒業程度認定試験等の合格者

## 8-2 留学生支援

平成 20(2008)年度まで、留学生に関わる事柄は留学生委員会と留学生支援課が担当したが、留学生の在籍者数の減少に伴い、平成 21(2009)年度からは学生委員会と学生支援課の所掌となった。留学生支援の観点から、平成 21(2009)年 10 月から非常勤の中国人職員を配置し円滑な支援を図るとともに、平成 22(2010)年 4 月からは常時事務職員を配置することで、更にきめ細かな留学生に対する支援体制を確立した。

留学生の進路は、過去のデータからみると、日本国内の大学院進学、日本国内の企業の就職、帰国というものである。日本国内の大学院進学希望者、就職希望者には、後述 8-5 就職・進学支援の項にある「就職支援講座」に参加を促し、また、東京外国人雇用サービスセンターの利用を勧めている。

## 8-3 奨学金制度

学生に対する経済的な支援として、本学独自の制度を設けている。加えて、日本学生支援機構の一般奨学金や私費外国人留学生学習奨励費、地方公共団体や民間の奨学金、教育ローン等の情報を学生に提供しており、充実した奨学金制度活用となっている。今年度の奨学金給付・貸与状況は以下のとおりである。

5 月 1 日現在

奨学金の名称	学内 学外の別	給付 貸与 の別	支給 対象 学生数	月額支給 総額 (円)	備 考
日本橋学館大学学生に対する住宅費補助	内	給付	52	1,093,750	遠隔地出身者で一人暮らしの者に補助 (年額 25 万円) 留学生は除く
日本橋学館大学私費外国人留学生奨学金	内	給付	90	1,552,500	学業、出席状況、経済状況を考慮して 選考し、授業料の一部を免除
日本橋学館大学私費外国人留学生住宅費補助	内	給付	18	104,500	入学時に住宅を賃借する際、一時金 として月額家賃の 3 ヶ月分(上限 10 万円) を補助
日本橋学館大学特待生奨学金	内	給付	16	749,583	学業、経済状況等を考慮して選考し、 授業料の一部を免除 留学生は除く
日本橋学館大学スポーツ・文化芸術特待生	内	給付	27	1,332,500	活動実績に応じて、授業料の一部を免除
兄弟・姉妹の入学者に対する減免制度	内	給付	3	43,750	本学に兄弟、姉妹が在学している入学者 対象 入学金半額免除
地元高等学校出身者に対する減免制度	内	給付	16	233,333	地元高校出身の入学者対象 入学金半額免除



日本橋学館大学私費外国人留学生に対する奨励金	内	給付	4	80,000	人物、学業等を考慮し選考（月額2万円）
日本橋女学館内部進学者奨学金	内	給付	9	521,250	併設校卒業の入学者対象
留学生特待生	内	給付	2	58,333	勤勉で高い日本語能力を有し、特待生入試（留学生）で合格した留学生
(独)日本学生支援機構奨学金	外	貸与	一種 22	1,224,000	自宅通学：3, 5.4万円（月額） 自宅外通学：3, 6.4万円
			二種 80	7,429,997	3, 5, 8, 10, 12万円（月額）から選択
			併用 7	734,666	一種、二種の併用
(独)日本学生支援機構私費外国人留学生学習奨励費	外	給付	13	624,000	1年間受給（2～4年次対象）

#### 8-4 健康相談、心的支援、生活相談等

学生の心身の健康と健全なる生活のために、以下の窓口や施設等を設置して、さまざまな相談に適切に応じられるように努めている。特に、新入生に対しては、入学式直後に『ハンドブック』を配付して、学生生活、奨学金制度、健康管理等についての説明を行うなど、全学生が相談のための窓口や施設を利用しやすいように周知している。

##### ・「なんでも相談」窓口

学生生活全般に関する窓口として、事務局窓口のどこに相談したら良いか分からないで迷っている学生に対して、一般的な相談に応えるほか、関係部署の紹介等を行っている。平成21年度秋から、留学生のために学生支援課に中国人職員を配置し、事務局窓口で相談に対応している。

##### ・保健室

常勤の看護師が保健室に常駐し、毎日学生からの健康相談を受けている。4月には全学生を対象とした定期健康診断を実施した。また、看護師が「保健室だより（*Nursing Magazine*）」を年4回（4月、6月、9月、11月）発行し、全学に向けて、その時々々の健康に関する話題を提供し、健康への関心を高めている。また、新入生に関しては、入学直後に「保健調査票」を提出させ、学生の健康状態を把握し、相談体制に活かしている。

①学生利用者状況 所見あり※病気、怪我、メンタルヘルスの主訴が明確な学生（単位：人）

月 学年 在籍数													計	比率 (%)	利用率 (%)	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月					
1年 166人	男	12	18	38	38	1	12	20	29	15	9	0	192	272	43	164
	女	6	9	7	23	0	10	12	7	3	3	0	80			
2年 74人	男	10	8	12	12	1	6	5	6	6	3	3	72	162	26	219
	女	4	11	18	17	0	9	10	14	6	1	0	90			
3年 88人	男	9	7	6	4	0	6	7	3	0	3	0	45	66	10	75
	女	2	1	3	5	0	1	6	2	1	0	0	21			
4年 181人	男	5	6	17	12	1	8	14	4	7	5	0	79	135	21	75
	女	10	9	9	9	0	1	6	2	6	4	0	56			
計 509人		58	69	110	120	3	53	80	67	44	28	3	635	100	125	

症状別

(単位：件)

症状・疾患名		件数	計
外科	筋肉痛	13	82
	捻挫	13	
	打撲	9	
	切り傷	23	
	その他	24	
内科	頭痛	152	558
	腹痛	144	
	咳・くしゃみ咽頭痛	143	
	発熱	9	
	その他	110	
計			640

所見有りの利用者 年次推移

	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
利用者数（人）	1060	976	816	602	635
在籍数（人）	935	867	714	573	509
利用率（%）	113	113	114	105	125

(在籍数は各年度5月1日現在)

所見なし ※病気、怪我などの主訴が特にならない学生

学年 在籍数	月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	計	比率 (%)	利用率 (%)	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
1年 166 人	男	70	61	91	76	11	40	55	42	37	26	9	518	943	39	568
	女	78	71	74	65	4	33	30	28	17	21	4	425			
2年 74人	男	38	38	29	40	9	22	33	27	24	17	11	288	602	25	813
	女	48	45	51	42	3	25	32	26	18	20	4	314			
3年 88人	男	10	20	23	24	0	17	23	26	13	9	1	166	311	13	353
	女	14	19	9	22	0	13	30	28	5	5	0	145			
4年 181 人	男	45	39	44	47	2	24	31	25	18	13	4	292	567	23	313
	女	35	48	53	43	5	18	27	21	14	8	3	275			
計509人		338	341	374	359	34	192	261	223	146	119	36	2,423	100	476	

②新入生保健調査（166人） 報告内容

- ・喘息・アトピー : 4人
- ・学習障害 : 1人
- ・糖尿病 : 1人
- ・聴覚障害 : 1人
- ・整形外科的治療中 : 3人
- ・統合失調症 : 2人
- ・うつ病 : 2人
- ・多動性障害 : 1人
- ・精神疾患（病名記載なし） : 2人

③学校感染症

A型インフルエンザ : 5人

結核 : なし（昨年度の発病者2人は治癒。接触した結核菌陽性者は、全員治療及び経過観察を終了した。）

④禁煙支援プログラム（平成22年12月～）

参加者 : 7人（内教職員1人）卒煙者3人、禁煙中2人、中断者2人

・学生相談室

全学生が、主に心理的な相談を受けることができるように、専門の心理カウンセラー（非常勤の臨床心理士1人）とピアカウンセラー（非常勤の本学心理臨床卒業生1人）、更に、本学の間人心理学科所属の専任教員（2人）により、週4日「学生相談室」を開室している。

学生相談室利用状況

単位：件（人）

学年 (在籍人数)	月別利用件数									計
	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	
1年 166人	16(9)	11(2)	10(0)	11(1)	9(1)	7(1)	7(2)	12(1)	4(0)	87(17)
2年 74人	3(2)	6(1)	7(1)	5(0)	2(0)	5(0)	6(1)	5(0)	2(0)	41(5)
3年 88人	2(1)	0	1(1)	2(1)	0	1(0)	0	0	0	6(3)
4年 181人	6(3)	8(0)	8(0)	7(0)	3(0)	7(1)	6(0)	3(0)	2(0)	50(4)
保護者	4(2)	0	0	1(0)	1(0)	1(1)	1(0)	1(0)	2(1)	11(4)
計 509人	31(17)	25(3)	26(2)	26(2)	15(1)	21(3)	20(3)	21(1)	10(1)	195(33)

相談内容

(単位：人)

	学業	進路	生活	心理	その他	合計
1年	3	1	0	12	0	16
2年	0	1	1	3	0	5
3年	1	0	1	2	0	4
4年	0	0	0	4	0	4
保護者	0	0	0	4	0	4
合計	4	2	2	25	0	33

学業：履修・留年・休学・研究・教職など

生活：健康・課外活動・家庭・経済など

進路：大学院・専攻・就職・人生など

心理：精神衛生・性格・対人関係など

その他の活動

(単位：件)

活動内容	前期	後期	計
コンサルテーション	19	11	30
カウンセラーサロン <月・水> 12:00~13:00	140	99	239
カウンセラー予約外臨床 (保健室等、他の場所)	34	23	57
ピアカウンセリング 月1~2回・不定期	36	6	42

相談数・利用率推移

(在籍数は各年度5月1日現在)

	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
利用者 (人)	26	20	33	30	34
件数 (件)	116	69	179	129	195
在籍数 (人)	935	867	714	573	509
全利用率 (%)	3	2	5	5	7
日本人学生数 ・利用率 (%)	676	581	485	420	397
	4	3	7	7	9

・教員によるサポートアワー制度

専任教員により、原則週1回、各教員の研究室で、決められた時間帯にサポートアワーを設け、訪問してくる学生に対する各種相談を行っている。

## 8-5 就職・進学支援

### ・キャリアセンターの取り組み

学生に対する就職・進学支援は、キャリアセンター、キャリア委員会、ゼミの担当教員の全学的な取り組みで行われている。毎月のキャリア委員会で、就職に関しては、求人状況、内定状況、支援講座の予定・出席状況、大学院進学状況等の現実分析に基づき、教授会の委員会報告において本学の進路体制の統一性を維持している。また、各学科会議において、キャリア委員が各学科の進路問題に対処している。

3年次を対象とする「個人登録カード」による進路調査を起点に、ゼミの担当教員、キャリア委員、キャリアセンター職員から相談・助言できる体制を構築している。キャリアセンターでは、「個人登録カード」をもとに学生の名前と顔を一致させ、学生の顔が見える face to face の対応を心掛け、学生の個別就職相談に応じる体制を整えている。平成 22 年度においては、80 人の就職希望者に対する年間の相談・指導実績は延べ 1,474 件であった。

また、「就職支援講座」・「公務員・就職試験対策講座」・「大学院進学支援講座」の出席学生状況・その感想記録、SPI 模擬テストの結果、適性検査の結果等、指導上有効に活用できる資料を常備して、当該学生の相談・助言の際の資料にしている。

### ・進路支援講座の開催

就職希望者には、3年次を中心にして、年間 15 回の「就職支援講座」を開催している。この「就職支援講座」の総延べ参加学生数は、平成 22 年度は 425 人であった。なお、昨年度から、この「就職支援講座」に、早い時期から進路を考える機会を与えるために、1年次から参加できるようにした。主な「就職支援講座」は「就職状況・就職活動の方法」・「適性検査」・「自己分析」・「履歴書の書き方」・「面接攻略法」である。「就職支援講座」には、4年次の就職内定者、卒業生、主に卒業生が就職している企業の人事担当者にも協力を得て、運営している。4年次の就職内定者には「先輩の就活体験談」・「学内合同企業説明会」というテーマで協力を得て開催している。

また、これに加えて、4年次就職希望者の内定状況に応じ、希望業種の企業を招き「学内合同企業説明会」を開催している。平成 22 年度においては 2 回開催した。更に、千葉県大学就職指導会主催の 29 大学合同「就活応援セミナー」には、本学キャリアセンター職員が出張し、本学の参加学生 23 人のサポートを行った。

進学に対する相談・助言体制は、大学院進学を主にし、「大学院進学支援講座」を起点に、ゼミの担当教員中心に行われている。

今年度の「進路支援講座」の実施内容、参加人数は次のとおりである。

進路支援講座

	日 時	教室	講座内容	学年	参加人数
--	-----	----	------	----	------

就職支援講座

1	6/3 (木) ・ 4 (金) 4 時限	201	就職環境・就職活動の方法 など	1～3	39
2	6/10 (木) ・ 11 (金) 4 時限	201	就職するために「自分を知らう」	1～3	30
3	6/10 (木) ・ 11 (金) 12:30～17:00	111A	就職サイト登録会 (日経ナビ)	3	46
4	6/17 (木) ・ 18 (金) 12:30～17:00	111A	就職サイト登録会 (マイナビ)	3	32
5	6/24 (木) ・ 25 (金) 12:30～17:00	111A	就職サイト登録会 (リクナビ)	3	24
6	7/1 (木) ・ 2 (金) 4 時限	201	S P I 模擬試験(就職試験を経験してみよう)	1～3	23
7	9/30(木)・10/1(金) 4 時限	201	適性診断テスト(R-CAP)(ストレングス)	1～3	34
8	10/21 (木) ・ 22 (金) 4 時限	201	適性診断 (R-CAP) 解説講座	1～3	32
9	11/4 (木) ・ 5 (金) 4 時限	201	自己分析講座 (R-CAP)	1～3	30
10	11/11 (木) ・ 12 (金) 4 時限	201	自分の強み発見講座 (ストレングス)	1～3	26
11	11/18 (木) ・ 19 (金) 4 時限	201	自己PR作成講座 (R-CAP)	1～3	18
12	12/2 (木) ・ 3 (金) 4 時限	201	エントリーシート・履歴書の書き方	3	29
13	12/3 (金) 5 時限	201	先輩の就活体験談	1～3	11
14	12/9 (木) ・ 10 (金) 4 時限	201	面接攻略法	3	23
15	1/25 (金) 13:30～15:30	201	就職支援セミナー(春休み就活直前講座・マナー講座)	3	28

1	5/20 (木) ・ 21 (金) 4 時限	201	夏まで決める就活講座(内定を勝ち取る就活講座)	4	18
2	5/28 (金) 4 時限	201	学内合同企業説明会 (5～6 社)	4	33
3	7/8 (木) 4 時限	201	学内合同企業説明会 (5～6 社)	4	28

公務員・就職試験対策講座

1	8/3～8/6(4日間) 10:30～16:00	107 109	公務員試験対策 就職SPI試験対策①	1～4	公務員 7 SPI 24
2	1/26～1/31(4日間) 10:30～16:00	107 109	公務員試験対策 就職SPI試験対策②	1～3	公務員 12 SPI 30

大学院進学支援講座

1	5/20(木)・21(金) 5時限	209	大学院合格体験談 大学院学生生活など	1～4	18
---	-------------------	-----	-----------------------	-----	----

保護者対象進路個別相談会

1	10/31(日) 10:00～16:00	105 106	保護者対象進路個別相談会	1～4	1組
---	----------------------	------------	--------------	-----	----

8-6 卒業生の進路 (平成22年度)

平成23年4月30日現在

卒業生数			内 訳						
			就職希望者			進学	アルバイト	帰国結婚	その他
			内定者	活動中	計				
人文経営学部	男	87	42 (82%)	9 (18%)	51 (100%)	8	10	6	12
	女	47	20 (69%)	9 (31%)	29 (100%)	2	4	5	7
	合計	134	62 (78%)	18 (22%)	80 (100%)	10	14	11	19



専攻 人数	就職 (進学)	専攻 人数	就職 (進学)	内 定 企 業 名 (複数内定者数) 進 学 校 名 (複数進学者数)
人間 社会 12	4 (1)	心理 臨床 13	8 (0)	<p>&lt;内 定 企 業 名&gt;</p> <p>建設・不動産：東京冷機工業・ライジングトラスト・松永エンジニアリング・日建・明昇電設(2)・ バイオエスレート・関建築</p> <p>製造：ユピテル・竹原化学工業・育良精機・パルブレッド・ 秋本製作所・アサヒ理化製作所・江口紙工</p> <p>卸売：小泉東関東・ワム・バイオス・紀の川商事・山 小売：スタイリングライフホールディングス・ネッツトヨタ つくば・ティーアールベンディングネットワーク (2)・グローバルフードジャパン・ジンカンパニー・ 岩澤商事・サンセットコーポレイション・オーケー・ 川久・かねたや・ギャラリー長谷川</p> <p>運輸：ヤマト運輸・三芳流通事業協同組合</p> <p>飲食：<u>コロワイド</u>・人形町今半・アバ・宮嶋商社・六木商事・ 天元国際</p> <p>金融・保険：郵便局</p> <p>情報：ヒューマンシステム・ブレンネット・セントラルシ ステム・空ネット・<u>光通信</u></p> <p>サービス：シーアイシー関東・ボックスグループ・八千代工 業・コスモブレインズ・アンツ・ヨコイ学習会・ B e - C A S ・イーエスエージェンシー・花椿テ クノサービス・日中商務旅行</p> <p>医療・福祉：啓仁会・西秀会・桐友学園・はーとふる・あいの わ福祉会</p> <p>公務・団体：生活協同組合連合会</p> <p>&lt;進 学 校 名&gt;</p> <p>進学(大学院他)：日本橋学館大学研究生(7)</p> <p>進学(専門学校)：江戸川大学総合福祉専門学校・日仏学院・ デジタルハリウッド東京校</p> <p>※順不同、アンダーラインは上場企業</p>
総合 経営 33	17 (4)	経営 情報 23	12 (2)	
国際 秘書 7	4 (0)	美学 芸術 19	6 (3)	
国際 文化 27	11 (0)			

## 9. 学生のクラブ・同好会活動等

学生のクラブ・同好会活動は以下のとおりである。

(平成 22 年 5 月現在)

体育系		文化系	
クラブ	人数	クラブ	人数
硬式野球	41	アーティスティック (美術)	17
硬式テニス	5	軽音楽	34
バスケットボール (男子)	7	管楽アンサンブル	10
バドミントン	12	食文化研究会 (SWEETS)	13
フットサル (男子)	8	演劇	14
ミニテニス	5	ボランティア (VANGUARD)	32
陸上競技	4	気晴らし娯楽演芸研究会	14
バレーボール	11		計 134 人
パワーリフティング	2		
	計 95 人		

同好会	人数	同好会	人数
卓球	3	サブカルチャー	6
	計 3 人		計 6 人

学生のスポーツおよび文化活動においては、以下のとおりの活発な活動がなされた。

### ・バドミントン部

山本 康暉

第 18 回柏市民秋季バドミントンダブルス大会男子 3 部 準優勝

### ・硬式野球部

千葉県大学野球春季リーグ戦 3 部第二位 秋季リーグ戦 第五位

加瀬 巨弥 打撃 第一位 (秋季リーグ戦)

菊池 祐希 打撃 第二位 (秋季リーグ戦)

## ・陸上競技部

林 武彦 (三段跳び)

第 89 回関東学生陸上競技対校選手権大会 2 部 優勝

第 63 回千葉県陸上競技選手権大会 優勝

第 83 回関東陸上競技選手権大会 優勝

## ・パワーリフティング部

池上 宏樹

第 29 回ジュニア全日本パワーリフティング選手権大会 第三位

第 60 回埼玉県パワーリフティング選手権大会 優勝

第 90 回関東学生パワーリフティング選手権大会 優勝

根本 梢

2010 年世界サブジュニアパワーリフティング選手権大会 第二位

第 90 回関東学生パワーリフティング選手権大会 優勝

第 15 回ジャパンオープンパワーリフティング選手権大会 優勝

## ・管楽アンサンブル

第 57 回柏市文化祭に出演

また、学長賞は、バドミントン部の山本 康暉に、岩山基金特別賞は、陸上競技部の林 武彦、パワーリフティング部の池上 宏樹、根元 梢に授与された。

## ○柏学祭について

10 月 30 日 (土)・31 日 (日) の両日に開催された。初日は台風の影響で、入場者が少なかったが、2 日目は、ゼミ、クラブ等による模擬店、展示をはじめ「お笑いライブ」、「古典落語の世界」などが行われ盛況であった。

## 10. 社会的活動

### 10-1 生涯学習支援センター

#### ・市民公開講座の実施

次のような内容の14講座を開講し、194人の受講者があった。

平成22年度 公開講座一覧表

開催日	講座名	担当教員	受講人数
6/5, 12(土)	『紫式部日記』の世界 －『紫式部日記絵巻』の鑑賞を通して－	服部 一枝	10
6/26(土)	谷崎潤一郎「細雪」を読む	柳沢 孝子	17
7/3(土)	邪馬台国論の1,300年史	太田英比古	49
7/6, 13(土)	次世代を育てる地域社会	池沢 政子	2
8/3, 10(火)	中国の不思議な話 －中国六朝志怪小説講読－	三枝 秀子	29
9/21, 28, 10/5, 12, 19(火)	原文を読む『ハムレット』	安田比呂志	6
10/14, 21, 28(木)	説経「さんせう太夫」と日本近代文学 －森鷗外『山椒大夫』と津島佑子「厨子王」 を例に－	佐々木さよ	15
10/1, 8, 15, 29(木)	原文で読むドイツ文学	阿部 雄一	6
10/19, 26(火)	教科書で見る現代教育	古賀 毅	5
10/26, 11/2, 9, 16, 30(火)	太りにくい、身体を作ろう！－ミニテニス－	高橋 早苗	15
10/7, 14(木)	声に出して読みたいフランス詩	原田 操	6
11/10, 17, 24, 12/1(水)	会話で学ぶ入門英文法	大久保澄子	14
12/4, 11(土)	パソコンで年賀状を作ろう	五藤 寿樹	9
11/4, 11, 18, 25, 12/2, 9(木)	留学生による中国語講座	張 佳馳	11

### ・中高年者の健康づくり運動教室の開催

前期 20 回（4 月～9 月）参加者 93 名、後期 20 回（10 月～3 月）参加者 95 名を開催した。

## 10-2 大学コンソーシアム柏

柏市の呼びかけにより発足した「大学コンソーシアム柏」は、地域と大学の連帯による知的資源を生かした街づくりを推進している。本学においては、地域学リレー講座・食と健康を学ぼうコースの中で、平成 22 年 7 月 24 日（土）に芳賀脩光教授による「ヒトのからだー老化・疾病予防と運動の役割」という題名で講演を行った。

## 10-3 図書館関係

### ・第 3 回図書館祭

平成 22 年 4 月 10 日（土）に行われ、3 回目のこの日は、初年度の倍の 600 人を集めた。図書館ボランティアや教員、そして学生ボランティアの協力を得て、普段は図書館を利用しない方々にも、存分に本学を楽しんでもらえる一日となった。

### ・ほほ月らいぶ

図書館棟 2 階のこもればいホールや体育館を会場に、コンサートや朗読などのイベントを開催。特に 10 周年を記念して開催した「天満敦子ヴァイオリン・コンサート」は、募集すると同時に満席となるなどの活況を呈した。平成 22 年 4 月から平成 23 年 3 月までに 6 回実施し、動員数は約 840 人であった。内容は以下のとおりである。

No.	タイトル	開催日	動員人数
その 14	<ライブ朗読>牧野信一作 『天狗洞食客記』	平成 22 年 4 月 10 日（土） 14:30～16:00	78
その 15	松戸市立第四中学校吹奏楽部 コンサート	平成 22 年 6 月 26 日（土） 14:00～15:30	151
その 16	みらくるサマーファンタジー ～歌とマリンバとキーボード アンサンブルの響演	平成 22 年 8 月 25 日（水） 15:30～17:20	130
その 17	朗読パフォーマンス	平成 22 年 11 月 20 日（土） 14:00～16:00	118
その 18	トリオ・ソナタの楽しみ	平成 23 年 2 月 19 日（土） 14:00～16:00	156
その 19	天満敦子 ヴァイオリン・コンサート	平成 23 年 3 月 5 日（土） 14:00～16:00	204

#### ・摘水軒コレクションの展示（図書館内）

平成22年1月よりスタートした展示を、引き続き「摘水軒記念文化振興財団」の協力を得て、その季節に相応しい肉筆浮世絵を選び、月ごとに展示。内容は以下のとおりである。

展示月	展示内容（作者等 / 作品名）
4月	市川其融 / 群鶴図
5月	慶長期 / 武家弓競図
6月	森狙仙 / 猿公図
7月	柳斎重春 / 竜虎紋様着衣太夫の図
8月	湖城他 / 蟲図寄書
9月	小泉斐 / 鮎図
10月	川又常行 / 廓内太夫道中図
11月	岡本秋暉 / 菊花彩鶏図
12月	東燕斎寛志 / 蹴鞠図

#### 10-4 日本橋学館大学協力会

平成22年10月30日（土）に平成22年度総会を開催した。

＜「日本橋学館大学協力会」は、本学学生の生活を支える柏地域の人々を中心に、不動産業ならびに仲介業、商店主、商工主、柏地域の住民（企業）の方々に本学ならびに本学学生の支援、指導をお願いする目的で、柏商工会議所の後援により設立された。＞

#### 10-5 出張授業

高校生を対象に、その高等学校に本学教員が出向き、大学での学習の楽しさ、また、本学の教育内容の充実と本学の良さを伝えた。

- ・平成22年 12月1日（水）第一高等学院（郡山校）
- ・平成22年 12月19日（日）代々木高等学校

#### 10-6 地域における活動

千葉県柏市・白井市、東京都、文化庁における、各種委員会活動等に、本学教員が講師・委員として参加した。

## 1 1. 募集活動

### 1 1-1 「大学説明会」の開催

- ・平成 22 年 7 月 16 日（金）本学併設高校会議室において、東京都立高等学校長を対象として実施し、本学における教育の特色をアピールした。15 校の都立高等学校の校長先生方が参加された。
- ・平成 22 年 7 月 23 日（金）本学内において、近隣高等学校の進路指導教諭対象として実施した。12 校の先生方が参加された。

### 1 1-2 学長による高等学校長訪問

- ・平成 22 年 6 月 22 日（火）より 7 月 9 日（金）まで、近隣の 25 校の高等学校長を訪問し、本学の特色をアピールするとともに、校長先生方との親睦を深めた。

### 1 1-3 本学専任教員による高等学校訪問

各教職員が担当する高等学校を訪問した。訪問地区は次のとおりである。

千葉県	大学を中心とした東葛飾地区、総武線（市川や浦安）地区
東京都	23 区の特に千葉寄りの地区
茨城県	水戸市より南の地域
埼玉県	さいたま市より千葉県寄りの地区
群馬県	高崎市・前橋市を中心とした地区
新潟県	新潟市・長岡市を中心とした地区
福島県	福島市・会津若松市・いわき市を中心とした地区
静岡県	静岡市・沼津市(三島市)を中心とした地区

### 1 1-4 オープンキャンパスの開催

オープンキャンパス（OC）の参加者が本学について知ったのは「人から聞いた＝口コミ」が 31.3%と一番多く、次に「高校の進路資料やポスター」21.4%、「ホームページ」9.8%、「進学情報サイト」8.5%、「進学雑誌」4.1%、「進学相談会」0.5%、不明 28.2% だった。

2005 年度の OC アンケート結果では口コミが 46%と最も多かったが、今年は 15%減少した。自宅や高校でのパソコン活用によって、自ら情報を得る機会が増えていったと考えられる。また、多くの媒体を複数活用した結果から「不明」が 28.2%と高い割合だった。（なお、口コミで誰から聞いたのかは「教員」36.8%、「友人」が 34.2%と高い割合である。）

OPEN CAMPUS 2010 参加者及びアンケート集計結果

OC 開催日程および参加者数

開催日	参加者 人数	内、3年生 (受験対象者。リピ除く)
3月27日(土)	6	6
4月24日(土)	8	8
5月29日(土)	13	8
6月26日(土)	29	20
7月10日(土)	27	22
8月1日(日)	75	41
8月7日(土)	42	26
8月15日(日)	64	23
8月25日(水)	46	12
8月28日(土)	28	12
9月25日(土)	34	25
10月30日(土)	9	4
10月31日(日)	18	10
11月20日(土)	5	2
12月11日(土)	9	8
1月15日(土)	16	12
合計	429	239

男女比

性別	人数	割合
男	190	44.3 %
女	237	55.2 %
不明	2	0.5 %
計	429	100 %

参加者の分類

分類	人数	割合 (%)	分類	人数	割合 (%)
3年	296	69	編入	5	1
2年	78	18.2	留学生	2	0.4
1年	24	6	その他	5	1
4年	9	2	不明	2	0.4
既卒者	8	2	合計	429*	100

\* 累計

・ 県別参加者数

参加者の約4割は千葉県であり、ついで東京都、埼玉県となっている。ほとんどの県は昨年並みの人数であった。今年度は特に埼玉県・神奈川県からの参加者が増えたのが特徴的。しかしながら、茨城からの参加者が減少したのが来年度の課題である。



単位：人

千葉県	149	東京都	70	茨城県	34	埼玉県	50
神奈川県	15	栃木県	3	群馬県	5	福島県	4
青森県	1	宮城県	1	山形県	1	新潟県	8
静岡県	7	熊本県	2	不明	12	合計	362*

\*実数

### ・参加者の進学希望学科

人間心理学科への進学希望の参加者は37%と、全体の約3分の1を占めている。総合経営学科は22%と総合文化学科は25%であった。未定の参加者は18%であった。

単位：人

総合経営学科	106	人間心理学科	182	総合文化学科	124	未定	86	合計	498*
--------	-----	--------	-----	--------	-----	----	----	----	------

\*複数回答含む

### 11-5 入学試験の実施

A O入試	10回	平成22年8月23日～年度末
推薦入試	7回	平成22年11月6日～年度末
一般入試	3回	平成22年2月4日～年度末
特待生入試	3回	平成22年11月6日～年度末
留学生特別入試	5回	平成22年10月9日～年度末
編入学入試	5回	平成22年9月11日～年度末
スポーツ・文化・芸術入試	随時実施	
訪問入試	随時実施	

## 12. 管理運営

本学は緑に囲まれた閑静な住宅地内に位置する。この地域は住居専用地域に指定されているため、高さ 10m以上の建物が建てられないという制限等がある。よって設備の拡充には制約があるため、校舎面積は十分に余裕があるとは言えないが、大学設置基準上必要とされる面積は校地・校舎ともに満たしている。

### 12-1 校地、校舎等の面積

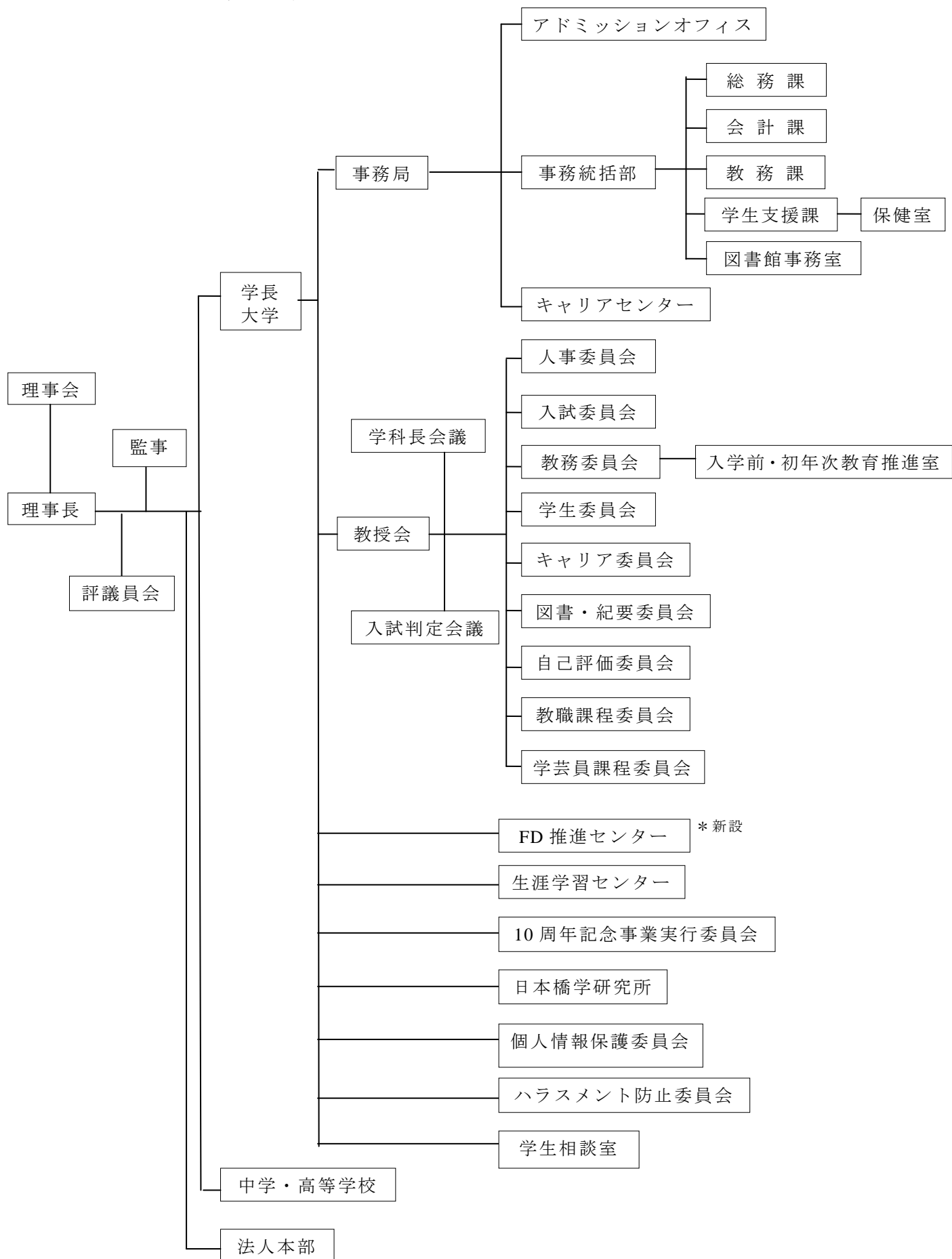
対 象	比 較	収容 定員	校 地			校 舎		
			基準面積	現有面積	差異	基準面積	現有面積	差異
日本橋学館大学		976 人	9,300 m <sup>2</sup>	25,783 m <sup>2</sup>	16,483 m <sup>2</sup>	5,388 m <sup>2</sup>	8,079 m <sup>2</sup>	2,691 m <sup>2</sup>

\* 校地・校舎ともすべて専用

### 12-2 講義室、演習室、学生自習室等の概要

建物区分(面積)		用 途	* ( ) 内は部屋数
校 舎	1号館 (4,159 m <sup>2</sup> )	大教室(マルチメディアルーム)、一般教室(9)、ゼミ室(3)、CALL教室(PC34 台)、コンピュータ教室(4教室・PC120 台)、和室、学習指導室、教職課程資料室、キャリアセンター資料室(PC 2 台)、応接室、学長室、教員研究室(30)、事務局(総務課、会計課、教務課、学生支援課、アドミッションオフィス、キャリアセンター、印刷室)、会議室(2) 学生ホール(106 m <sup>2</sup> )、学生食堂(345 m <sup>2</sup> )、学生会室、用務員室	
	2号館 (1,903 m <sup>2</sup> )	大教室(センターホール)、中教室(3)、一般教室(4)、女子更衣室、非常勤講師控室、生涯学習センター、学生自習室、保健室、学生相談室	
	図書館棟 (2,005 m <sup>2</sup> )	図書館事務室、学習図書閲覧室、情報コーナー(PC10 台)、応接室、書庫、こもれびホール(163 m <sup>2</sup> )、教室(2)、日本橋学研究所、教員研究室(9)、教員サロン、名誉教授室	
	警備室(12 m <sup>2</sup> )	受付	
計	8,079 m <sup>2</sup>		
体育関連施設(1,319 m <sup>2</sup> )		体育館(1,037 m <sup>2</sup> )、トレーニングルーム(222 m <sup>2</sup> )、管理室、シャワー室 *別棟の男子更衣室(60 m <sup>2</sup> ) 含む	

### 1 2 - 3 管理運営体制



<あとがき>

平成 22 年度の年次報告書がようやく刊行の運びとなりました。諸般の事情により刊行が遅れましたこと、お詫び申し上げます。

年次報告書は、第一号（平成 21 年度版）を、『年次報告書』作成チーム（委員長：勝野まり子教授）により、平成 22 年に 9 月に刊行いたしましたが、本号の第二号は、自己評価委員会が担当することになりました。委員会での協議の結果、基本的に第一号と同じ項目を取り上げて、内容の検討とデータの更新をすることになりました。これを続けていくことによって、本学の問題の推移が明らかになり、今後の課題が明確になるだろうとの判断からでした。

簡単に見える作業は、実はかなりの時間と労力を伴うものでした。白紙の状態から第一号を完成された勝野まり子委員長をはじめ『年次報告書』作成チームの皆様のご多大なるご貢献に改めて敬意を表する次第です。年次報告書は、本学の現状を客観的に伝える貴重な資料であり、時系列に読み取ることにより、今後の改善・改革のひとつの拠り所となります。ご活用いただければ幸甚に存じます。

今日ここに完成を見ることができましたのは、自己評価委員会委員をはじめ多くの教職員のお力添えによるものです。衷心より御礼を申し上げます。とくに、事務局の窓口としてサポートしてくださいました総務課の高野課長、データの更新など気骨が折れる作業に当たってくださいました事務局各課のご担当の皆様にご心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

自己評価委員会委員長 北垣日出子

## 日本橋学館大学 年次報告書 平成 22 年度

平成 24 年 3 月 25 日発行

編集：日本橋学館大学 『平成 23 年度自己評価委員会』  
(北垣日出子、佐々木由利子、佐藤康廣、塩澤寛樹、  
高橋早苗、田中二郎、原田操、安田比呂志)

発行：日本橋学館大学  
〒277-0005 柏市柏 122-6  
TEL 04-7167-8655

